

日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局

天と地と人

前ボストン総領事 望月敏夫

ボストンから家族とともに帰国し早くも半年がたちます。子供達はカルチャー・ショックを克服したようですが、私ども親も、ファイナンス・ショック(円高ではなく物価高から来るもの)と闘いつつも、東京の生活のペースにすっかり戻りました。

「ボストンはよかったですよ。」と大抵の人から言われますし、私も本当によかったと思っています。では何がよかったのかと改めて考えてみますと、それは私どものボストン滞在が、天の時(良い時代、環境)、地の利(地理的な好条件)、人の縁(友人、知人との親交)に恵まれていたからです。

この「天の時、地の利、人の縁」という表現は、私が北京に勤務していた時期に(今の改革・開放路線が始まった頃です)、当時の趙紫陽総理が日本から来る代表団に会うたびに、日中関係を形容するのに好んで用いたオハコの表現でした(中国人というのは漢語の国だけあってこういう言い回しが上手です)。この三拍子そろうと人はハッピーになるということです。

ボストンに関して、この三条件を逐一説明する

必要はないと思いますが、何といたっても大事なものは、三つ目の条件である「人の縁」だと思います。正に私どものボストン滞在を有意義かつ快適にしてくれたのは、それぞれの分野で活躍しておられる在留邦人の皆様と各地・各界の地元のアメリカ人のおかげでした。特に日本人会とその婦人会及びニューイングランド経済懇話会を中心に活動されている皆様には大変にお世話になりつつも、楽しいお付き合いをさせていただきました。

これらの方々は邦人の間の親睦を深めているのみならず、在留邦人と米国人との間の相互理解のためにも活躍されており、改めて敬意を表したいと思います。

おかげで、私共が日本に戻ってきてからも、しばしばボストン在住の日本の方やアメリカ人が連絡をくれたり、訪ねてきてくれまして、旧交を温めておりこの上なく嬉しく感じております。更に、日本ボストン会に入会出来ましたので、私のボストン・コネクションが長続きする場も出来ました。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。(筆者は現在外務省より文部省大臣官房審議官に外向中)。

SOUND FROM BOSTON

竹中真・安積尚子 ジョイント コンサート

日時 平成7年(1995年)6月16日(金) 18:00開場 18時半開演
 場所 「アンダンティーノ」 (電話03-3408-2006)
 青山ツインビル西館地上1階(地下鉄銀座線/半蔵門線青山一丁目駅下車)
 会費 お一人 5,000円(軽食代込み)
 申込先 日本ボストン会事務局 (詳細同封別紙参照)

ボストン日本協会

(Japan Society of Boston, Inc.)

創立90周年を祝う

昨年10月24日-29日、全米最古であるボストン日本協会90周年のお祝いがありました。この記念行事に東京から参加された女流書家の矢萩春恵先生にお話しを伺いました。

今回の90周年記念テーマは「未来」。このロゴを矢萩先生がお書きになられたのです。「21世紀に向かって未来ある日米関係をとの思いで筆をとりました。」と話しておられました。

ハーバード大学客員教授として3年間務められ、更にボストン美術館や当地の幾つもの大学でのパフォーマンスを通して書を紹介してこられた先生にとり、3年ぶりのボストン訪問となりました。

紅葉のまだ残るボストンでの6日間に亘る行事は、武満徹氏のコンサートに始まり、着物ショー、エズラボーゲル氏の講演、石岡瑛子さん等アーティストの方々のお話しや、社会で活躍する日米の女性達のシンポジウム(日本からは広中和歌子さん、加藤タキさんなどが出席)が開かれました。

最終日にはボストンハーバーホテルにてギャラが開かれ、小和田恒国連大使夫妻を初めとする450人の出席があり、ディナーをはさんで、第一部・第二部に分かれたオペラ「開国への序曲」が上演されました。また、オペラ終了後、脚本家ジョン・ワイドマン氏に矢萩先生の作品が寄贈されました。

90th Celebration
& Beyond

未来

PACIFIC OVERTURES

生活ガイド「ボストンへようこそ」

ボストン日本人会が発行した「ボストンへようこそ」は2000冊総てが好評のうちに売り切れてしまい、現在オストンにも東京にも在庫がなくなっております。ボストン日本人会婦人部では今年8月を目標に改訂版を制作中です。(近藤百合子記)

日本ボストン会

第3回総会報告

1994年10月21日(金)午後6時半より第3回日本ボストン会総会が、前回と同じ日本電気(株)の三田クラブで開催されました(会員50名参加)。

ボストンから参加された吉野先生の開会挨拶、アメリカ大使館のアン・キャラハンさんの流暢な日本語での乾杯の音頭で和やかに始まりました。

欠席者からのコメント紹介、新メンバーの自己紹介、1年間の活動・会計報告・WG活動報告のあと、新代表幹事の選出が行われました。

これまでは前ボストン日本人会会長の吉野耕一先生にお願いしておりましたが、出来るだけ早く後任を選任するようにとのご希望があり、初代のボストン総領事であられた東海大学法学部教授の井口武夫先生にお引受け願うことになりました。

今回、名古屋から牛毛(うしけ)神社の神主である久米生光さんに、名古屋で計画が進められているボストン美術館のことについてもお話しを伺うことができました。本当は伊勢神宮のご遷宮についても伺いたい思っておりましたが、予定時間が少なく短いお話しで終わり、来年の再会をお約束をして9時前に散会しました。(土居嘉子記)

北海道・マサチューセッツ協会動向

本年2月、札幌で開かれた5周年記念行事には、マサチューセッツ州から訪問団(46人)の参加がありました。

団長はマサチューセッツ州立大学前学長のナップ先生で、州のロバートソン教育局も共に来道されました。

一行の中にはパークレー音学院の学生も入っており、ジャズコンサートも開催され、1,000人の参加がありました。呼び物の雪祭りで開かれたメイフラワー号のオープニングセレモニーには、横路知事とともに参加されました。

本年10月には、北海道からマサチューセッツ州に60名の訪問団派遣が予定されております。

(藤盛紀明記)

阪神大震災と日本ボストン会

日本ボストン会副代表幹事 藤盛紀明

1995年1月17日午前5時46分、淡路島を震央とするマグニチュード7.2の都市直下型地震が発生しました。死者は5000人を上回り関東大震災級の被害となりました。被害を受けられた方々には、心からお見舞い申し上げます。

私が午前6時のNHKニュースをみた時には、ただ「地震がありました」と言う程度の、いつもの地震ニュースの雰囲気でした。しかし時間を追って被害の大きさが判明して、日本中が大騒ぎになりました。

私の勤務先は建設業なので、当日朝、早速現地と本社に対策本部を置き対応を始めました。私は被害を受けた建物の診断、補修、補強の総責任者として当日から超多忙で、今もてんでこ舞いです。コンクリートや鉄骨の建物の被害も大きく、その修復は大変な作業です。

避難所で暮らす人は今も多く、その苦労は大変です。物質的な物はかなり充足してきていますが、プライバシーの保てない避難所生活での精神的な問題が大きくなっています。全国各地で被災された方の受入れを表明していますので、地元を離れるならばなんとかなんとかなるとの事ですが、神戸を離れたくないと言う気持ちは大変強いようです。そのお気持ちも良くわかります。

日本ボストン会の関係者の被災状況は完全には把握しきれませんが、現在会員には被災者はないようです。幹事の土居太陽夫さんご夫妻の両方のご両親が兵庫県にお住まいですが、お家に軽微な被害があった程度との事です。

地震発生から2週間後の1月28日(土)に、当会WGの「歴史を飲もう会」の会合が予定されておりました。このWGの担当幹事の金子さんが被災建物の診断・補修設計のために、神戸出張となった為に会を決行するかどうか議論がありましたが、予定通り開催しました。目的は岩倉具視卿のお墓の調査でした。私も携帯電話持参で参加しました。幸い、会の最中神戸からの電話は2回でした。

次回「歴史を飲む会」は5月に予定しております。

(連絡先WG幹事藤盛・金子)

岩倉具視公の墓所を訪ねる

篠崎史朗

昨年一月、歴史研究家泉三郎先生より「ボストンにおける岩倉一行の足跡」について興味のあるお話を伺ったが、今回の会合はその岩倉公の墓を品川区大井町の「海晏寺」を訪ね、更に近辺の史跡を巡り、最後は会食で仕上げ新年会とする趣向であった。

その昔、紅葉の名所として「江戸名所図会」に載った程の海晏寺も、今や国道や殺風景な高層建造物に囲まれ、往時の姿をイメージすること全く不可能で、僅かに鐘楼付近に点在する江戸の文人墨客の墓にその痕跡を留めるのみである。

然し本堂裏手の丘に登り、鉄柵で仕切られる岩倉家の墓所内でその墓石の前に立つと、維新と言う時代の雰囲気や元勳具視の日本近代史に於ける重みと言ったものが、実感として見る側に伝わって来て、参加者一同、泉先生の解説をガイドに、一族の他の墓や石碑など十分に探査することが出来た。

昼近く海晏寺を辞し、穏やかな日差しの中旧東海道を北品川方面に歩む。この辺りは古い東京の面影を今尚残す場所として、近年散策者が多いと言われる場所である。

八ツ山橋近くの「品川神社」で「板垣退助」の墓を参った後「東海禅寺」の墓所へと向かう。山手通りをJRのガードをくぐり、硝子工場の記念碑を見乍ら直ぐに右折、線路沿いに進むと陰気臭い台地に突き当たる。丁度在来線と新幹線の分岐点だが、そこが東海禅寺の墓所で、「沢庵和尚」、「加茂真淵」、「渋川春海」など著名な歴史上の人物が眠っている。こんな処にと思える場所だが、台地上がって見ると、この地は本来東海禅寺の敷地の一部で御殿山と言われる広い丘陵地の一角を形成していたことが容易に見て取れる。それが文明開化を迎え、新橋-横浜間の鉄道敷設で分断されたのである。

沢庵和尚や加茂真淵は自らの背後を走り抜ける新幹線の轟音に仰天しているに違いないが、同じ墓所で異なる想いをしている人物もいる。新橋-横浜鉄道建設を推進し、初代鉄道省長官を務めた「井上勝」で、彼だけは我が事成れりとあの世で満足しているだろう。

南品川のゼームス坂を経てJR大井町駅ビルへ。駅ビル内の美味しいイタリア・レストラン、サンパレーのワインとパスタで満足し、3時過ぎに解散。

Clark夫妻のコレクション

"Clark Art Institute"
Williamstown, MA.

昨年秋、紅葉の最高潮の頃(10/7-21)に訪れたおとぎの国の様な美しい街 Williamstown。その一角に色とりどりの木々に溶け込むように "Clark Art Institute" はあった。

19世紀後半から20世紀初めの多くのフランス印象派の画家達の絵が、目に眩しいほど広い室内に整然と並べられていた。

学芸員そして美術史家でもあった設立者 Clark氏のお気に入りには印象派の風景画であった。例えばモネ、ミレー、ルノワール、シスレー、ピサロ。

世界に知られるルノワールのコレクションは30点余り、それらの展示室は明るさと華やかさに満ちていた。Boston Museum of Fine Art に見られる1869年のルノワールの作品 "花びんのバラ" と同じく、Clark Collectionの "バラのブーケ" も又キャンバスの中央に大きくバラが描かれている。Bostonの作品は光と影の対比が非常にすどく、全体の構成に非の打ち所のない強さを与えている。

Clark Collectionの "バラのブーケ" はよりソフトな光と影を意識し "花びんの花" の様にきめ細かく描かれることなく斜めよりのブラッシュストロークをもってよりフリーである。

1955年Clark夫妻は "安全性" を一番に考え、美しい自然に囲まれた静かな街に美術館を設立した。遠い日本にいながら、何時でも足を運べる様な親しみのもてる美術館である。

(次回WG「美術愛好会」鑑賞予定)

華麗な色彩と独自の幻想性で訴えかける「ギュスターヴ・モロー展」を鑑賞する予定。国立西洋美術館(3月21日-5月14日)。19世紀フランス絵画の中でも特異な位置を占めているモローの油彩、水彩、素描など国内外のコレクション約150点をテーマによって分類。参加希望者は幹事までご連絡下さい。WG幹事 酒井典子 (045)-788-8124

岩倉使節の足跡を訪ねる旅(第5回)

泉三郎先生がコーディネートされる「地中海クルーズとエジプト・12日間」('95年6月15日より26日)の参加者募集中です。(企画:久米美術館/学研「歴史群像」編集部、旅行主催・申込先:日本通運(株)渋谷支店)

Bostonの先生方をお迎えして

(平成6年11月19日ホームステイ)

酒井典子

リンカーン中学校教師 Robert Terranoさんとメドフォード公立中学校教師 Jay Griffin さんの初めての日本研修旅行、忙しいスケジュールの中とても楽しく過ごせたと喜んで戴きました。

11月17日より25日までの9日間、学校・資料館訪問、会議そして観光とスケジュールはびっしりの様でした。

19日午後、天候に恵まれ、スーツ・ネクタイ姿のお二人には少し暑く感じられた様でした。私と娘で鎌倉案内、殊の外大仏様、長谷観音そしてあたりにたちこめるお線香の香りが気に入られた様子でした。

ささやかな夕食はわが家でしばしBostonのお話しに花が咲きました。小さなわが家のお風呂、そしてお布団の心地良さにぐっすりとお休まれた様子。

翌朝早く京都へ発たれましたが、すこしでも日本について理解を深めて下さればと思いました。

幹事会記録

☆1994年12月13日(火)出席13名

1. 総会報告

出席者 33家族46人

収入(会費・キャッシュバー) ¥238,110

支出(通信費・飲食費) ¥148,075

差引残 ¥90,035

*日本語学校寄付 ¥13,000

*ウエントワースホテル保存寄付 ¥16,000+\$10

*ボストン日本人会宛送金済

活動の反省:入会案内の手直し。

2. 会員入会状況(1994年10月21日-12月13日)

2家族

3. 国際教育情報センター(ホームステイ受入支援)

(別項「Bostonの先生方をお迎えして」参照)

4. 北海道・マサチューセッツ協会に講師派遣

柳沢先生の講演(94.9.21)好評と報告あり。

5. WG活動報告・計画

☆1995年2月23日(木)出席者14名

1. 懇親ゴルフ会企画(95年5月12日金曜日)

於「泉カントリークラブ」(別紙参照)

2. レディース会(95年6月16日金曜日)

於「アンダンティーノ」(別紙参照)